

フランス・マルセイユにおける海外武道実習 —柔道専攻ゼミ学生を対象に—

スポーツ・武道実践科学系 准教授 濱田初幸
Hatsuyuki HAMADA

1. はじめに

柔道競技は加速する国際化に伴い、激しく変動している。その動向は技術の多様化、次々に改正される審判ルール等において顕著に表れている。2005年に、鹿屋体育大学（以下、本学）の教育目標である「高度な専門的知識と豊かな学識を有し、国際的に活躍できる高度な専門指導者になり得る人材を育成する」に沿って、「柔道大国」と称されるフランス、パリ近郊、スーシー柔道クラブにて柔道を専攻する濱田ゼミ学生（以下、ゼミ生）が海外武道実習を実施した。グローバル化する状況の中で、学生が海外において柔道体験することの教育的意義は高いとの考えから企画された。

今回、2012年11月、フランス最大の港湾都市、マルセイユに在る Massilia Sports Judo Club（以下、マシリアクラブ）から招聘を受け、これに合わせて同行を志願するゼミ生2名と本学大学院を23年度に卒業した1名を帯同し、本ゼミにとって2度目となる海外武道実習を実施した。

本実習を支援してくれたマシリアクラブの指導者、ジェーン・ミシェル・レベック氏はフランス国家が認定する柔道指導者資格を有する専門家である。日本語が堪能で日本文化を愛する親日派であり、これまでに指導力の向上を目的としてこれまでに5度、本学視察に訪れている。マシリアクラブはレベック氏を団長として、2009年7月に23名、2012年に10名のメンバーを引率して鹿屋市を訪れ、肝属地区柔道会を始め本学柔道部や鹿屋市内にある柔道クラブ・光武館との交流を行ってきた。

このような経緯もあり、マシリアクラブ代表責任者であるエリック・トレント氏の計らいで、学生らは同クラブに所属する生徒自宅にホームステイをすることになった。11日間の日程で、この種のホームステイとしては長期滞在であったが、受け入れ先の家庭はいずれも家族全員が、好意的に快く引き受けてくれた。初渡航の学生にとっては、現地の日常生活を実体験できる貴重な実習となった。表1・表2にメンバーリストおよび日程表等を記す。

表1 派遣先クラブおよびメンバー

派遣先クラブ	フランス マルセイユ Massilia Sports Judo Club
派遣メンバー	濱田初幸 本学教員
	中山賢一 本学大学院修士課程 平成23年度卒業
	河野愛美 体育学部武道課程 3年
	市来大和 体育学部武道課程 3年

表2 海外武道実習日程表（2012年10月28日～11月8日）

日付	時間	スケジュール
10月28日	20:40	鹿児島空港出発 羽田空港 22:15着
10月29日	1:30	羽田空港出発 シャルドゴール空港（約13時間） 6:20着
	8:35	シャルルドゴール空港出発 マルセイユ・プロヴァンス空港 9:55着
	15:00	宿泊先・ホームステイ宅到着
	18:00	マルセイユ市街視察
	20:00	会長歓迎会招待
10月30日	12:00	マルセイユ区役所表敬訪問
	13:00	イタリアンレストラン クラブ役員招待会
	17:00	クラブで稽古（9歳～12歳の柔道家）
	18:30	クラブで稽古（14歳以上の柔道家）
	21:00	クラブ招待会
10月31日	12:00	マルセイユ市街視察（美術館・石鹸工場等）
	20:00	柔道家有志招待会
11月1日	8:00	エクサンプロヴァンス市街視察
	17:00	クラブで稽古（9歳～12歳の柔道家）
	18:30	クラブで稽古（14歳以上の柔道家）
	20:00	ウエルカムパーティ（講習会会場にて）

11月2日	9:00	形講習会（講道館護身術の形・柔の形・固の形・投の形）
	14:30	カシ視察，クラブ役員招待会
11月3日	9:30	クラブで稽古（14歳以上の柔道家）
	14:30	クラブで稽古（14歳以上の柔道家）
11月4日	9:30	クラブで稽古（14歳以上の柔道家）
	14:30	フランスナショナルカデ選手権大会を視察
11月5日	9:00	自由行動（ホームステイ先の家族同伴）
11月6日	9:00	マルセイユ市街視察
11月7日	7:15	マルセイユ・プロヴァンス空港出発 シャルルドゴール空港 8:45着
	11:00	シャルルドゴール空港出発 羽田空港 6:55着
11月8日	8:10	羽田空港出発 鹿児島空港 10:05着

2. マシリア柔道クラブ概要

ア) 創設年

1991年マルセイユに設立 文部省に承認され，フランス柔道連盟に加盟

イ) 目的

少年，青年，成人のために柔道場や稽古環境を提供し，柔道を通じて社会貢献することを目的とし，障害者に対する活動も行う。

ウ) スタッフ

会長，事務局長，会計，指導者など9名によって構成されている。

エ) 稽古会場

マルセイユ市内公民館，小学校体育館，郊外の公民館の3会場

オ) 稽古日程（一部抜粋）

表3 ジェロム体育館でのスケジュール

年 齢 (歳)	曜日	時間
4 - 5 歳	金	17h15 - 18h15
5 - 6 歳		18h15 - 19h15
6 - 9 歳	水	17h30 - 18h30
9 - 13歳	月	17h30 - 19h00
	木	
14歳以上	月	19h00 - 21h00
	木	
体力トレーニング	水	18h30 - 19h30
強化稽古		19h30 - 20h30

カ) 会費300ユーロ（10ヶ月分）

フランス柔道連盟登録費34ユーロ（1年間）

キ) 登録者（2011年－2012年）

総数271名

有級者 男子198名 女子50名

初段以上 男子22名 女子1名

表4 マシリア柔道クラブ年齢層別登録者数

年齢	男子 (名)	女子 (名)	総数 (名)
9 歳以下	102	25	127
10歳－19歳以下	87	22	109
20歳－29歳以下	16	3	19
30歳－39歳以下	9	0	9
40歳－49歳以下	4	1	5
50歳－69歳以下	1	0	1
70歳以上	1	0	1
総数	220	51	271



写真1 マルセイユ市役所公式訪問

3. 講習会日程

表5 講習会日程一覧表

10月29日	子供のクラス	14歳以上のクラス
	①道場内ランニング	①場内ランニング
	②準備体操 (日本スタイル)	②準備体操 (日本スタイル)
	③回転運動	③回転運動
	④小外刈の指導 (その場にて)	④小外刈の指導 (その場と横移動)
	⑤乱取 1 分 × 5 本	⑤乱取 4 分 × 5 本

11月1日	子供のクラス	14歳以上のクラス
	①道場内ランニング	①道場内ランニング
	②準備体操 (日本スタイル)	②準備体操 (日本スタイル)
	③回転運動	③回転運動
	④小外刈の復習	④小外刈の復習
	⑤小外刈の指導 (前後移動)	⑤小外刈の指導 (喧嘩四つの相手)
	⑥乱取 1分×5本	⑤乱取 4分×5本
11月2日	大人のクラス 形講習会	
	①講道館護身術の形	
	②投の形	
	③固の形	
	④柔の形	
11月3日	全体稽古	全体稽古
	①道場内ランニング	①道場内ランニング
	②準備体操 (日本スタイル)	②準備体操 (日本スタイル)
	③回転運動	③回転運動
	④小外刈の復習 (前後移動、喧嘩 四つの受)	④既習技の復習
	⑤帯取返から抑込技	⑤小内刈(前後移動)
11月4日	全体稽古	
	①道場内ランニング	
	②準備体操(日本ス タイル)	
	③回転運動	
	④腕挫十字固の指導 回転式(中山)	
	⑤絞技の指導(河野)	
	⑥腕絡の指導(市来)	



写真3 講習会会場小学校体育館



写真4 正座する受講生



写真5 学生による指導1

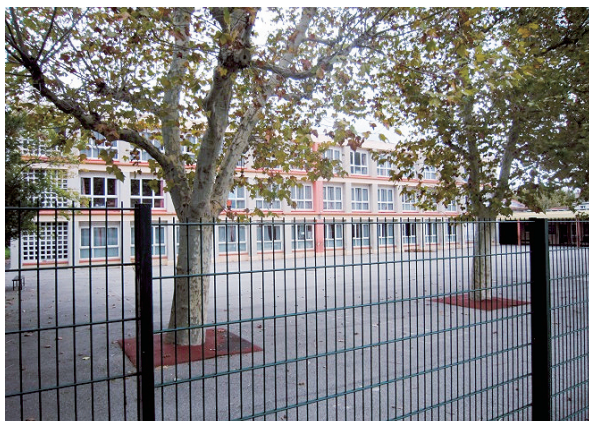


写真2 講習会会場小学校校舎



写真6 学生による指導2



写真7 学生による指導3



写真11 参加受講生集合



写真8 技術指導1



写真9 技術指導2

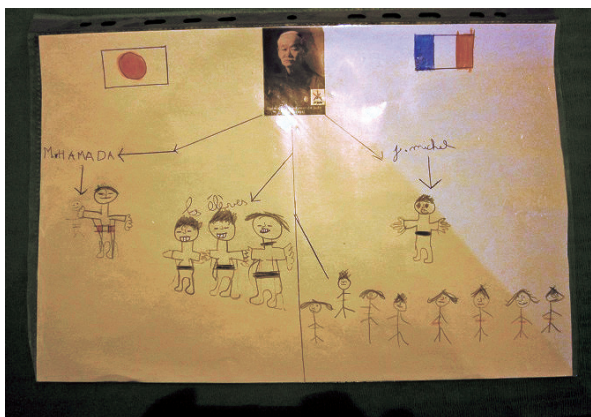


写真10 マシリア柔道クラブ女子生徒（10歳）から
プレゼントされた絵

4. 講習会概要

マシリア柔道クラブは1991年に設立され、会長にはエリック氏の父であるシェーン・トレント氏が就いている。クラブの方針は柔道の持つ精神性を追求し、人間力の向上を目指し教育性を重視した指導理念であるとのことで、老若男女が柔道を楽しんでいる様子が窺えた。独自の専用道場を所有していないため、小学校体育館、公民館など3箇所での公共機関の施設を利用して活動を行っている。運営費は登録者会費、市・県からの公的資金援助と事業助成金等で賄われている。クラブ会費は一人当たり、年間40,000円弱を必要とし、フランス柔道連盟登録費として約4,000円（年間）支払わなければならない。登録者数は270名を超えているが、この数はフランスでは平均的なクラブ登録者数である。

講習会はマルセイユ市内の小学校体育館に畳を敷いて行われ、一クラスに約50名の柔道家が参加した。講習会においては、対象者のレベルに応じて基本的な動き方、体捌き、足技を中心に指導した。稽古開始前後、乱取り中の礼法は「立礼」、「座礼」共に厳格に正しく行われていた。技術的な課題はあるが、柔道に対する真摯に取り組む姿勢や受講態度は真剣で好感が持てた。

「講道館護身術の形」を指導した際に、70歳代の高齢夫婦の参加が見られたが、「形」への関心、意欲が高く、細かな技術点の相違を指摘すると直

ぐに修正し繰り返し稽古していた。高齢者がライフワークの一環として「形」を中心とした柔道を「生涯柔道」として位置付け、健康維持を目的として「形稽古」に意欲的に取り組んでいた。高齢化社会を迎え、柔道が人間の健康に貢献できることは、柔道の価値を一層高め普及にも繋がる。体力の衰えから激しい「乱取り稽古」はできなくても、健康で長寿を目的として「形稽古」は老若男女を問わず、安全に行うことができる。我が国では伝統的に競技偏重傾向が強く、乱取り重視の稽古法が中心で、諸外国と比較すると形稽古が浸透していないのが実態である。今後の課題として、長寿社会に向けて、「形稽古」の有効性を発信し啓蒙していく必要があると考える。

5. まとめと課題

参加学生はこれまでに渡航経験がないことから、当初は不安もあったが、彼らの有する国際性、適応能力、コミュニケーション力は高く、ホームステイ先の家族や現地柔道家たちとも良好な人間関係を築き充実した実習を終了することができた。異文化環境下で、初めて共同生活を体験する彼らにとっては、毎日が新鮮で全てが「学びの場」となった。

特に海外の柔道家を対象に形指導講習会の指導体験は、柔道専攻学生として「形」に対する技術や理論、知識、意識をより深く学習しなくてはならないことを自覚することができた。また、学生自らが個々の「得意技」を講習する機会を拵えた。「技」を実演することができても、伝えることの困難さや語彙、語学力の未熟さを体験しながら、帰国後、本学において何を学ばなければならないかを考える機会でもあった。

一方、柔道技術指導においては、「崩し」「作り」「掛け」に秀でた高度な技術、理に叶った「技」を身につけておくことがいかに重要か、さらに確かな「技」は海外の柔道家を魅了し、言葉の壁をも超えることを知り得た。彼らの「技」を伝えた

いとの強い気持ちが受容されたのか、技術講習会は筆者の予想を超えて好評であり、学生にとって大きな自信となり、学習意欲を高める良き刺激となった。学生主体による講習会の機会を広げ、「国際的に活躍できる高度な専門指導者になり得る人材を育成する」に直結するカリキュラム導入を検討していかなければならないと考える。

国際化され、世界に普及している柔道を深く学ぶためには、海外を歴訪し体験しないと見えてこない価値や意義がある、と捉えている。世界を見て、触れてみて柔道の価値を再考する。国境を越え世界を知ることは「外国かぶれ」になることではなく、「日本の原点帰帰」への契機でもある。柔道に限らず日本の美德や魅力を知り、伝統文化の意義や先人の「技」を後世に継承することの大切さを学ぶことができる。

そこに「気付き」があれば、本実習の目的は十分果たせたのではないだろうか。グローバル化に対応できる人材育成は高等教育機関の使命であることは論を待たないが、社会的ニーズの高まりは我々の予想を超えて活発化している。本実習における彼らの活動に対する積極的な姿勢や生き生きとした表情に接すると、教育効果は明瞭で多くの学生に柔道・武道・スポーツを通した海外実習を体験させる必要があると思考している。

課題点として、現在学んでいる「形」の習熟度を高めつつ、講道館に定められている「極の形」、「古式の形」など、講道館の定める全ての「形技能」を修得することが求められる。また、より質の高い海外武道実習を実現するために、現地の文化や歴史、宗教、産業など幅広い視点から事前学習を行い、予備知識を深めておくこと、日常会話や「得意技」を説明する程度の語学力の向上が挙げられる。

実習を通して学生は多いに刺激を受け、学び、成長して無事に帰国することができた。筆者自身も「初心に戻れ」と自己啓発された有意義な海外武道実習であった。難題、課題は山積するが、本学創設の理念である「武道の振興」に寄与するこ

とからも, その責務として本実習を推進していか
なければならないと熟考した。

最後に, 本実習に支援していただいた関係各位
に, この場を借りて, 謝辞を申し上げる。

引用文献

- 1) 濱田初幸 (2006) 柔道大国・フランスの実態
を巡る . 鹿屋体育大学学術研究紀要 :34, pp.49-61.
- 2) 松原隆一郎 (2006) 武道を生きる . NTT 出版
株式会社 : pp.116-120.
- 3) 吉田郁子 (2004) 世界にかけた七色の帯ーフ
ランス柔道の父 川石造酒之助伝ー. 駿河台出
版社 : pp.173-175.